

●ロカベン財務情報の活用を切り口にした事業性評価への取り組み

- 名称：株式会社富山第一銀行
- 愛称：ファーストバンク
- 代表者：頭取 横田 格
- 本店所在地：富山県富山市西町5番1号
- 創立：昭和19年10月1日
- 資本金：10,182百万円
- 役職員数：746名(単体)
- 預金：1兆1,763万円
- 貸出金：8,337億円
- 事業内容：預金業務 融資業務 為替業務 その他代理業務

導入経緯

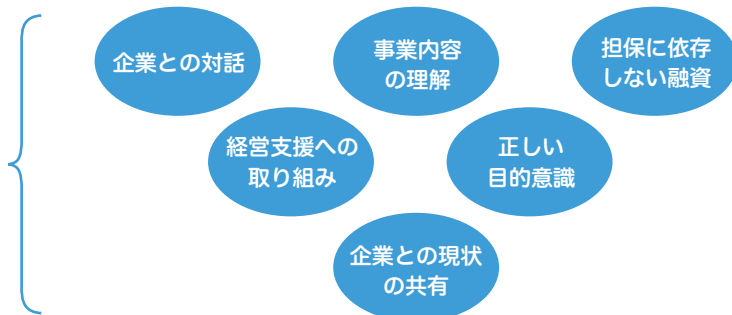
●ロカベン活用前の事業環境

- ・事業性評価に基づく融資等が重要性を増していくなか、当行においても、重要なテーマとして推進していく方針を採った。

●ロカベン活用前の現状

- ・事業性評価の実施自体が目的化してしまうなどの表面的な捉え方に終始、また短期継続融資の実現が事業性評価の目標であるといった、誤った認識が広がっていくなど、導入の意図とは異なった方向性に進んでしまう事態となった。

求められる要素



ロカベン導入前の課題

- ・企業との対話を積極的に実施する必要があるが、きっかけがなかったり、経営者から聞き出すのが難しかったりする。
- ・担保に依存しない融資の実行、経営支援の提案などは、事業内容を正しく理解していないとできない。
- ・これらが難しいと、新規融資の実行や融資残高のみが目的化されてしまい、最も大切なプロセス部分が疎かになってしまう。
- ・メモや行内共有用のレポートは残しても、公開できない情報もあって、それはそのまま企業と共有することはできない。

ロカベンのメリット

- ・経産省のツールであるため、企業との対話に誘導しやすい
- ・企業事業性を網羅的に把握できる
- ・ロカベンはあくまでも対話ツールである、との認識を共有しながら話を引き出す
- ・経営者と共有し、対話に活用することが前提

取り組み体制の構築

2016年3月に経済産業省からロカベンが公表され、公表後から当行内で活用方法について検討が進められてきた。その結果、財務と非財務の指標のうち、財務の指標についてシステムに取り込み、財務データ分析に対する行員の能力向上と、融資先企業との分析結果の共有を目的として、活用していく方針となった。

入手した決算書データを当行の審査用システムにエントリー、融資審査時に必要な資料作成と同時に当行版にアレンジした「財務診断レポート」が完成する仕組みを構築。



社内環境

- ・ 当行システム上での財務診断レポート作成機能構築
- ・ 業種別審査事典のPC上での閲覧環境構築

対顧客

- ・ 財務診断レポートの顧客との共有化
- ・ 経営計画の策定支援業務への注力

顧客企業、経営者との対話の深化

「財務診断レポート」は、ロカベンの精神に則り、顧客先への開示が可能。

活用の効果・課題

効果	課題
財務諸表や財務分析に対する、より深い理解が進んだ	ロカベンシートの非財務部分への活用や応用
経営者との対話の質が向上	行内での個々人の理解度に乖離がみられるため、その平準化
顧客本位の立場に立った提案が増加した	1回限りではない、長期的な視野での提案や課題解決への具体的な行動

金融機関の声

現状、ロカベンシートについては財務シートしか活用ができていない状況ではあるが、詳細に読み込んでいくと、一口に財務状況と言ってもさまざまな指標があり、奥が深いことが分かった。これらを活用して経営者との対話のきっかけづくりができていくが、今後は非財務部分の活用も視野に入れていきたいと考えている。また、事業性評価やロカベンを活用した経営計画の策定支援を実施しているほか、経営者保証の解除にも積極的に取り組んでいる。一定条件を満たせば、支店長判断で経営者保証の解除が可能となる制度を導入。件数は着実に増加傾向にある。